

平成27年度 第1回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録

日 時： 平成27年7月10日（金）午前10時～

場 所： 図書会館 大会議室

【参加者】 岩崎れい、森岡伸枝、平井富久子、森田桂子、島谷佳子、藤波康幸、
永島久伸、吉尾典子、高橋信子
(欠席) 真銅宏、吉村茂、

【事務局】 向田真理子、松本芳樹、平澤佐千代、清水淳子、春名己容子（以上図書館）
吉田久恵（生涯学習課）

1 開会

2 案件

(1) 「生駒市子ども読書活動連絡調整会議5ヵ年のまとめ」について

◎当会議の平成22年度から平成26年度までの活動報告として作成。今後の子ども読書活動の推進に理解を得るため、必要に応じて活用していく予定。

○この5ヵ年で学校司書の配置が進み、平成26年度には市内小中学校20校すべてに週2回配属されているが、学校図書館に変化はあったか？

- ・図書館を使った授業の補助や、図書の時間におはなし会、ブックトーク、絵本の読み聞かせ等をする機会が増えた。先生方も学校司書を活用しやすくなったと感じているのではないか。
- ・週2回勤務になると図書の時間を割り当てやすく融通をきかせやすい。学校司書もデスクワークをする時間が持てるようになった。
- ・学校司書によるブックトークも年1回から年2回へと実施回数が増えた。今後、常駐へと拡大すれば、地域への図書館開放も考えていけるかもしれない。
- ・本に関心のあるスクールボランティアと学校司書の連携体制が整い、修理・装備等、図書館資料整備の充実につながっている。体制が整ってきたことで、先生方がボランティア活用にも前向きに取り組めるようになった。ボランティア側は、図書館整備、開館時間の拡大等、具体的に児童生徒の図書室利用に貢献できることを実感して活動できるようになった。
- ・文化祭で、保護者が学校図書館利用（保護者向けの本を借りる）を体験した。

- ・学校司書が本への導き役になり、図書委員と一緒に特集コーナーを開設するなど、本が身近な存在となるように取り組んでくれている。

○読書通帳導入の計画はあるのか？

- ・検討したが、個人情報の問題、経費の問題などがあり導入には至っていない。
- ・希望者に『ふくちゃん本よも隊手帳』（図書館発行ブックリスト掲載本の読書記録ノート）を交付している。機械記帳ではなく手書きだが、1冊読むごとにその本の表紙のシールを貼っていくことで、読書意欲が高められる。

（2）平成27年度事業計画(案)について

◎今年度秋に市内小中学校の学校図書館見学を計画。司書教諭と学校司書の案内で学校図書館を見学後、質疑応答の時間を設ける。他校の学校司書も参加予定。

（3）その他

◎本会議の参加者でもある吉尾典子生駒幼稚園長による事例報告『幼稚園での取り組み～絵本の大切さを伝えたい～』（※事例は前任園である俵口幼稚園のもの）

- ・俵口幼稚園は、地域ボランティアの活動が盛ん。子どもたちも交流するのを楽しみにしている。
- ・昨年度の学校図書館視察（近江兄弟社学園）で学ぶことがたくさんあった。本との出会いが、子どもたちの幸せにつながるのだとわかった。
- ・その視察が縁で、生駒市図書館から団体貸出を受けた。子どもたちの年齢、季節に合った絵本を公共図書館司書を選び、学期ごとに50冊～100冊程度。
- ・同じく昨年視察時に俵口小学校の学校司書と話す機会があり、年長組の学校図書館見学へとつながった。当日は学校司書から絵本の読み聞かせをしてもらった。
- ・12月、子どもたちの発案で学校司書に手づくりの年賀状を出すことになった。学校図書館見学が子どもたちの印象に残ったのだと思う。年明けには学校司書が幼稚園にお返事を持ってきてくださり、交流が深まった。子どもたちが小学校へ入学して心細い時に、図書館を利用して「ここに来たな。」「本を読んだな。」という思いが、小学校になじむきっかけになってくれたらいいと思う。
- ・今年度から着任した生駒幼稚園でも、生駒小学校の学校図書館見学が実現しそうだ。
- ・俵口幼稚園は、地域の人たちから大切にされている。子どもたちとボランティアとの関わりが、保護者との交流につながっていく。子どもたちを受け入れる地域があつて

子どもは育つ。

◎図書館からの追加報告(幼稚園・保育園との連携)

- ・従来から教科学習のための団体貸出や、図書館発行ブックリスト掲載本をセットにした団体貸出を行っているが、昨年からは希望される幼稚園には図書館員が選んだセットを学期ごとに貸出するようになった。
- ・保育園では貸出本の破損や紛失を恐れる声も聞くが、職員室に置き、先生方が子どもたちに読み聞かせをする際に持ち出す形でうまく利用されている。

◎事例報告を受けて

- ・幼稚園児の小学校図書館見学は、事例としては少ないと思う。
- ・入学時、子どもたちの不安は大きい。それを解消するには幼小中含めた連携が必要。
- ・本や図書館はずっと変わらないもの。入学後、学校の図書館へ行ったら知っている人がいる、なじみの本があると思えるのは安心。中学もやってもらえたらいいなと思う。
- ・公立保育園では、ブックスタートでもらう本を教室に展示したりしている園もある。園と公立図書館が近いと、子どもたちが借りに行きじっくり選ぶことが出来る。地域の民生委員や分館の司書にも読み聞かせやおはなし会に来てもらっている。絵本の持つ力を保護者にも伝えたい。
- ・字を読めることと本を読めることは違う。どうやって幼稚園から小学校、小学校から中学校へとつないでいくのが課題。
- ・読書タイムに高学年対象の本は読み切れない。絵本の読み聞かせをすると、5、6年でもくいついてくる。興味があるのだなと思う。担任が読むばかりではあきるので、シャッフルして担任以外の先生が読み聞かせをするという取り組みをしている。子どもたちにとっても新鮮。先生によって得意分野が違うので、内容もバラエティに富んでよい。
- ・幼小の連携について以前に研究したことがある。大正時代に連携の形として行事や研修会などを行う例はあったが、図書館をとおしての連携はなかった。
- ・学校司書との連携が生まれたのは嬉しい。初めて学校司書が誕生した時のことを思い出す。更に一校につき週3日配置になるように応援していきたい。
- ・2学期から数校が週3回配置になる予定。

◎図書館から、ビブリオバトルの市内中学生大会について告知。

◎図書館から、来年度予定している講演会の日程について相談。